

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.195

発行: 令和4年4月1日



講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

「神楽岡公園・春の自然観察会」～春の野草を探そう～

とき 令和4年5月3日(火)祝 *小学生以上*

午後1:30~3:30 定員15名

講師 植物研究家 塩田 惇さん



「花、小果樹、野菜の病害虫と防除講習会」

とき 令和4年5月14日(土)

午後1:30~3:30 定員15名

講師 緑のセンター相談員



「ミニカトリアを木片で育てる講習会」

とき 令和4年5月22日(日)

500円

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



「庭の雑草対策講座」

とき 令和4年5月28日(土)

午後1:30~3:30 定員15名

講師 緑のセンター相談員



「立派なコショウランをもらった時の講習会」

とき 令和4年5月29日(日)

午後1:30~3:30 定員5名

講師 緑のセンター相談員



令和4年度 連続講習会 13:30~15:30

これから始める家庭菜園の初級講座

4/30(土)・6/4(土)・7/16(土) 全3回 1,000円 10名

コショウランの花を来年も咲かすための講座

5/1(日)・8/7(日)・9/25(日) 全3回 1,000円 10名

四季成り風イチゴ栽培講座

5/8(日)・8/28(日) 全2回 500円 10名

講習会の開催予定 (講習会のお知らせなどにつきましては、緑のセンターだより、市民広報などでお知らせいたします)

*令和4年6月 ハーブ講座、7月-ハギ ヲガバ スカットづくり 山野草講座など。

常磐公園花壇ボランティア募集のお知らせ

活動期間: 令和4年5月中旬から10月上旬(月1~2回、主に金曜日)まで全10回、第1回目は、5月13日(金) 約1時間半程度

場所: 旭川市常磐公園 中央花壇

参加料: 無料(当協会負担でボランティア保険に加入します)

対象: 現地集合可能な方で、期間中の活動日に参加できる方
申込・お問合せ: 随時、受付します。

公益財団法人旭川市公園緑地協会【☎0166-52-1934】

展示会のご案内

「野の花写真展」

4月23日(土)~5月15日(日) 「作品提供」 神田 亘雄氏

「山野草展」5月21日(土)~5月22日(日)

「作品展示」 北海道山草趣味の会

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~3月は毎週月曜日が休館日です。(")



〈園芸の基礎知識〉 植物の生き残るための争い【最終】

～ 工夫を凝らした生き方 ～

■葉をトゲに変えて生きる植物

砂漠のような水が極端に少ない乾燥した場所で植物は、なるべく水を蒸発させないように暮らしています。サボテンの場合は生命維持に必要な水分の蒸発を防ぐため、葉の表面積を小さくするように針状化させ、葉を「トゲ」にしました。また、茎も光合成ができるように進化させ、必要な水分を貯えやすいように多肉化し、水分蒸散を防ぐために気孔の数も減らして生命を守る進化を遂げました。体の表面には、パラフィンのような物質を張りめぐらせています。そのため、サボテンなどの表面は、白く光るような艶があります。

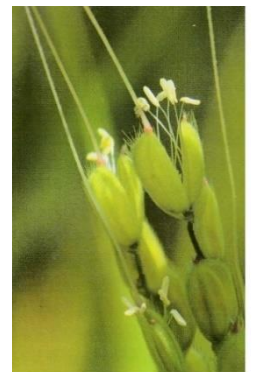
■寄生する植物

ほかの植物の体にとりつき、栄養を奪って生きる植物を「寄生植物」と呼びます。寄生植物の中には、自分で光合成ができるのにもかかわらず他の生物から栄養を奪う半寄生するものもいます。身近な植物ではヤドリギです。また、全ての栄養を完全に他の植物に依存するのを「全寄生」といい、代表する植物はネナシカズラです。この植物は普通の根をもたず、葉は退化しており、ツルのような茎から、宿主に吸着する根をだしてからみつき、そこから栄養を奪い取って成長しています。

■花びらのない花は、めずらしくない

花びらのない花を咲かせる植物の代表はイネ科の植物です。私たちが主食にしているコメやコムギ、トウモロコシの三大穀物は、この花びらのない花を咲かせる植物が作ったものです。イネ科の植物は、虫を誘い込む美しい花びらをもつ植物たちとは違った生き方を選びました。きれいな花に頼らずに、自家受粉で種子をつくったり、風に花粉を託したりして子孫（種子）を残しているのです。

(参考資料:SB ビジュアル新書「植物のすさまじい生存競争」ほか)



イネの花

4 月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

花が終わったアザレアは樹形を整える剪定をした後に植替えますが、植え土の pH はやや酸性を好むため無調整ピートモス等を加えます。

ゼラニウム、フクシア、ポインセチアなどは徒長枝の間引きや切戻し剪定を行います。

夏花壇用のサルビアやマリーゴールドなどは上旬にタネを播きましょう。

チューリップやスイセンは雪が消えたら、球根の周りに油粕や化成肥料を 1 m²あたり各 50～60g 施用しましょう。

2 観葉植物類

窓辺の鉢は株全体に光がよくあたるように向きを変えます。暖かい日中は戸外に出しても気温が下がる前には室内に取り込んで下さい。

3 多肉植物・サボテン類

だんだん日差しが強くなりますので、日当たりの良い窓辺に置いて、少しずつ水やりを開始しましょう。

花が終わったシャコバサボテンは先端の茎を 2～3 節摘んで全体の樹形を整えてから植替えをしましょう。植替えを予定する鉢は水やりを控え、用土を乾かしてから行うようにします。

5 月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

ベゴニア、フクシア、ゼラニウムなどは植替えの適期です。生長に合わせて水やり回数を多くして、肥料は置肥と液肥を併用しましょう。

アマリリスなどの球根植物で花が終わったものは、球根を育てるために日当たりの良い場所で育てるようにします。

ベゴニアなどの鉢花は曇雨天の日に屋外に出し、外気に馴らしてから屋外に出しましょう。

ダリア、カンナは降霜に弱いので、地温が 10℃以上になってから、遅霜に気をつけて 5 月下旬以降に定植しましょう。

2 観葉植物類

2～3 年経った鉢は根詰まりしやすいので、早目に新しい観葉植物用の用土に植替えし、同時に徒長した枝は剪定して樹形を整えます。

新芽が出てきた鉢はかん水を多くし、液肥を与えます。日中に戸外に出すときは葉焼けに注意し、外気に馴らしてから屋外に出しましょう。

3 多肉植物・サボテン類

アロエ、カネノナルキなどの多肉植物やサボテン類は生長期なので屋外に出し、日当たりの良い場所で水と肥料を与えましょう。

植物の病害虫

その66 「スモモヒメシンクイ」



被害果の症状と食害部位から出たヤニ

幼虫(体長:約12mm)

成虫(体長:約7mm)

- 1 寄生しやすい植物……スモモ、プルーン、リンゴ、ナシ、ボケなど。
- 2 被害:幼虫が果皮の下を浅く食害します。果面に不規則な黒い筋状の食害痕を残す場合と、果実に食入して芯部まで食害する場合があります。また、食害部位からヤニが出ることもあります。
- 3 生態:幼虫が土中で越冬。羽化した成虫が幼果に産卵して、幼虫が果実を食害します。5月下旬～9月上旬にかけて年に2～3回発生します。食害した幼虫が老齢になると果皮に蛹室を作り、その中で蛹を作ります。その後、羽化して成虫になって飛散し、他の果実に産卵して世代を更新します。
- 4 防除法:アセタミプリド水溶剤「商品名:モスピラン顆粒水溶剤」4000倍、クロチアニジン水溶剤「商品名:ダントツ水溶剤」3000倍、ダイアジノン水和剤「商品名:ダイアジノン水和剤34」1000倍、ペルメトリン水和剤「商品名:アディオフロアブル」1500倍液などの薬剤を散布します。
★ 薬剤散布時期の目安は、6/10・7/05・7/25、8/05頃になります。

(参考資料:住友化学株式会社、北海道病害虫防除提要、農業総覧など)

ちょっと楽しい講座のご紹介

緑の講習会「立派なコチョウランをもらった時の・・・」から

「お祝い事で豪華なコチョウランもらった。どうやって育てたらいいの?」「花が終わったんだけど、莖はどこから切ったらいいの?」「葉がシワシワになってきた。病気かな?」など、立派なコチョウランをいただいた時は嬉しい反面、その後どうしたら・・・??と不安を感じたことはありませんか? そんなときのための講座をご紹介します。

コチョウランは、タイやフィリピンなどの一年中暖かい熱帯雨林で生まれ育ち、そこにいれば50年以上も生き続ける植物ですが、寒暖の差が大きい旭川で毎年、美しい花を咲かせるためには一般の植物とは異なる管理が必要になります。

特に、春から夏、秋から冬の管理は大きく変わることから、当センターの相談員が講師となって、5月、6月、10月に各1回(希望者5名/回)、を対象にコチョウランの置き場所、水やり、施肥、植え替えの方法など、栽培管理について勉強する講座を開設しています。

コロナ禍にあっても、講座で栽培管理の勘所を習得された方々から「花芽が上がってきました〜」「やっとまた、きれいな花を見ることができました」など、歓喜の声を頂くことは、緑のセンター職員一同にとって嬉しさ溢れる瞬間です。ぜひ毎年、美しい花を愛でて頂きたいものです。





アマリリスを楽しむ

アマリリスは、冬から早春にかけて大きな球根から力強い花茎を勢いよく伸ばし、「我こそは花の女王なり」とばかりに誇らしげに咲きます。原産地は南米のペルー、ブラジル。

数十種の原種を交雑させた園芸種の品種数も多く、鉢花向きの巨大輪種ルドウィヒ系や、切り花や花壇向けの在来種系、両者を合わせた小・中輪多花性のグラシリス系などがあります。日本には明治時代に渡来しました。

【栽培のポイント】……①球根の先に芽が見えたら 20～25℃程度で日当たりが良いところへ。②開花球は最初の給水から 40～50 日で開花する。花が咲いたらやや涼しい明るいところへ。③水やりは鉢土の表面が乾いたらタップリ与えるのが基本(受け皿の水は捨てる)。花茎が出る前までは水を控える。
★フタつきポット入りの球根を買った場合は……①乾燥・休眠状態で販売されているので、まずタップリ水やりして、以後は軽くなったら給水する。②日当たりの良い窓辺に置いて、花蕾が出てから 2 カ月位で開花する。花が咲いたらやや涼しい明るいところへ。③花が終わったら植え替えが必要。

【 1月～6月 】

- 植え替え時期は1～2月が適期。大輪系は5～6号鉢、中・小輪系球根は4～5号鉢に1球植え。球根は埋め込まず、球根の1/3程度が出るくらいの浅植え。
- 植え付け用土(赤玉土4、腐葉土4、礫2)は、酸性を好むので無調整のピートモスを混ぜ込んだり、リン酸主体の緩効性肥料を適量、混合しておく。
- 植え付け後の水やりは、葉が出るまで控え、葉が出だしたらタップリ給水する。
- 花が終わったら花柄を摘み、茎は枯れてから葉の付け根で切り取る。その後、葉は来年開花する球根を育てるので、切らずに大切に育てる。



【 6月～9月、 9月下旬～2月下旬 】

- 新しい葉が5～6枚出ると花芽が形成されるので、花後は積極的に10日に1回・液体肥料を1,000倍に薄めて与え、晩秋まで葉を維持して、球根を育てる。
- 水やりの目安は鉢の表面が乾いたら「タップリ」が基本。休眠期に向かう9月下旬から徐々に減らし、10月中旬には中止。その後は休眠させ、鉢は5～10℃程度の場所で、植え替え時期まで保管する。

展示室の植物 (101)

ベンジャミンゴムノキ 学名: *Ficus benjamina* クワ科 イチジク属

東南アジアやインドが原産のベンジャミンゴムノキには、「友情」や「信頼」の花言葉があるようにオフィスや自宅のインテリアとして人気がある観葉植物です。和名はシダレガジュマル。



一般的には葉のバリエーションや幹模様を楽しむことが多い植物ですが、「花を見たことがないのに実がなった。」と驚かれる方がいます。じつはこの花は実の内部に包まれていて、外見では見る事がなく、果実内で受精して実が育つのが特徴。ですから、この実は花でもあることになります。

このように実の内部に花を咲かせる性質を「隠頭花序」といい、イチジクの仲間(無花果)に特有のもので、実は5mmほどの緑色の球体ですが、熟すと赤く色づきます。